

男女共同参画社会に関する 県民意識調査

結果概要版

岡山県では、男女が人権を尊重しつつ、性別にかかわりなくそれぞれの個性や能力を十分に発揮し、
一人一人の価値観に基づいた多様な生き方を選択することができる

男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいます。

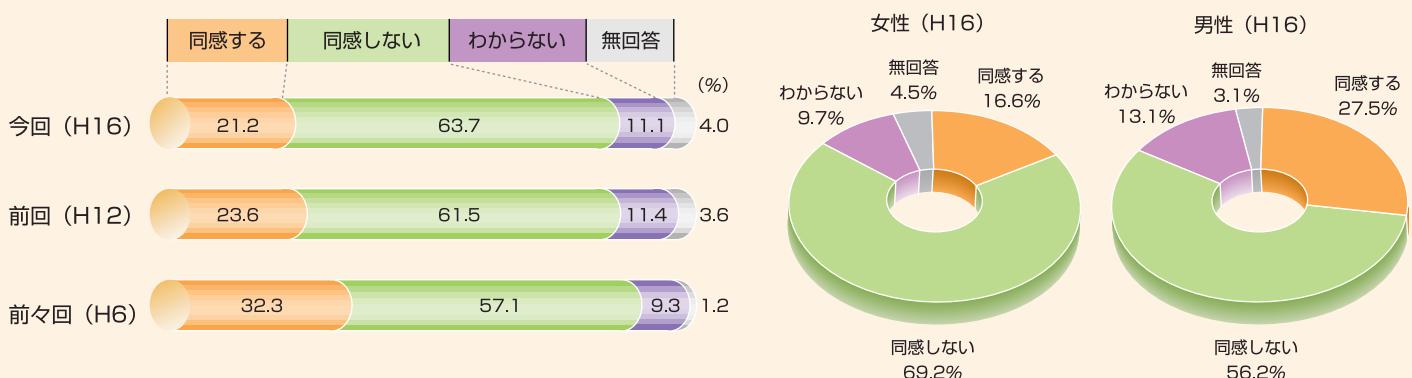
この意識調査は、県民のみなさまに男女共同参画社会に対するお考えやご意見をお伺いし、
今後の施策を検討するうえでの基礎的な資料とさせていただくことを目的に実施しました。

平成17年3月

岡山県

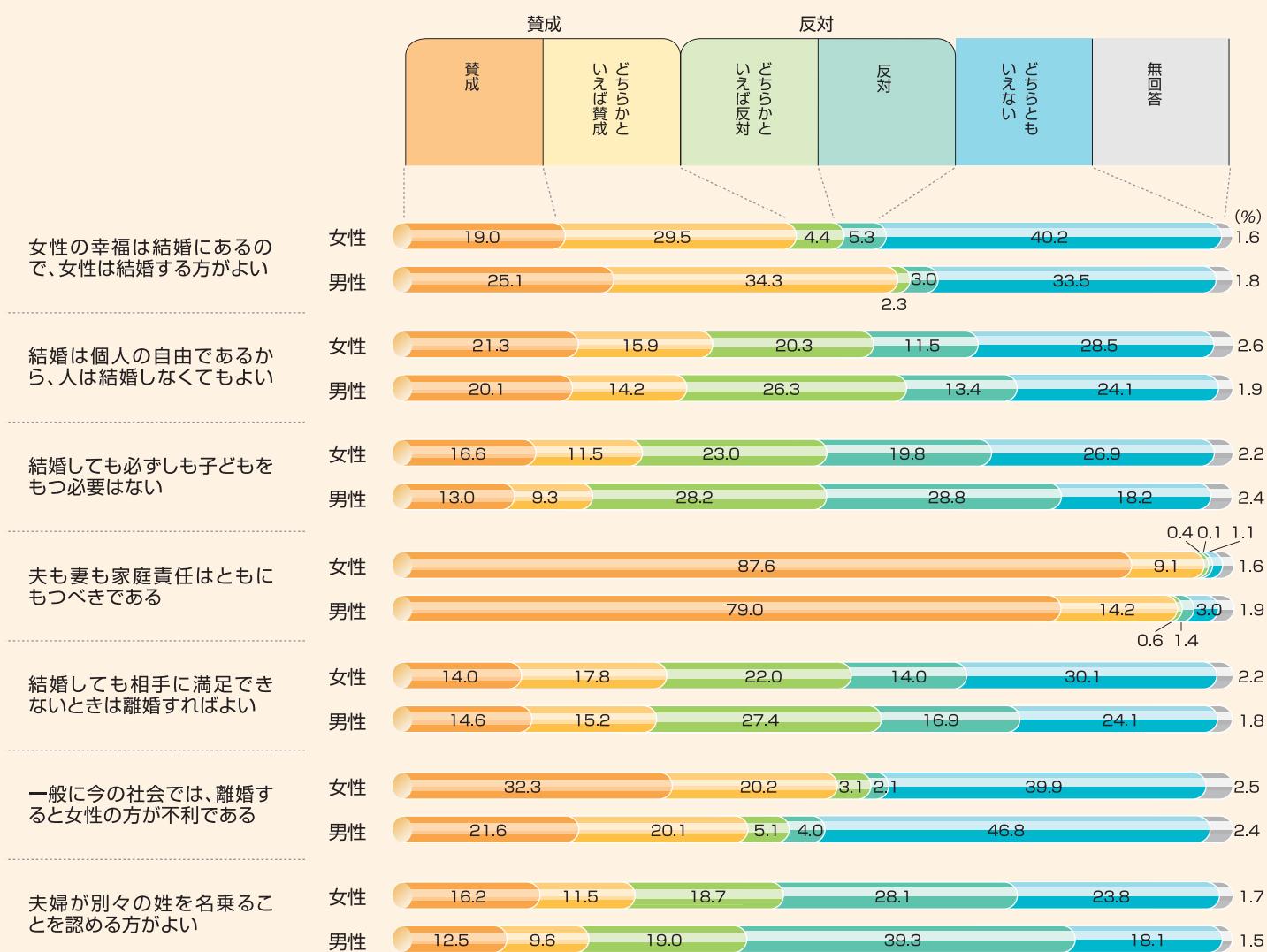
性別役割分担意識

■ 「男は仕事、女は家庭」に同感しない人は全体で6割以上



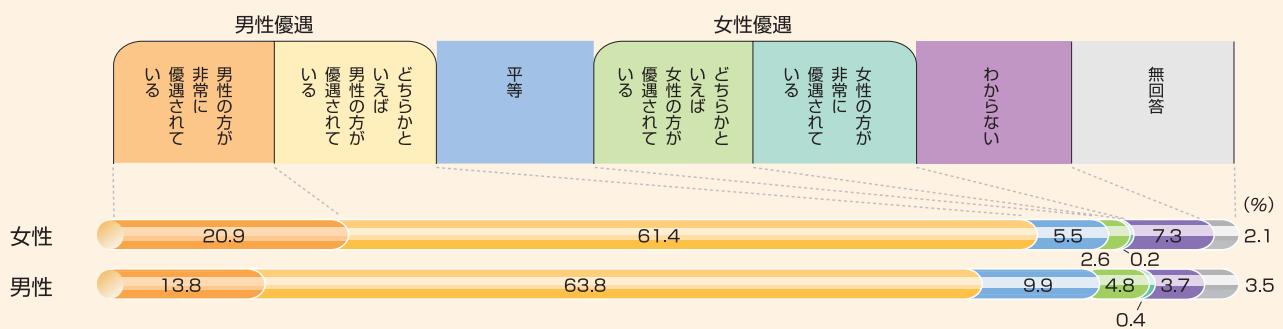
結婚・家庭・離婚・夫婦別姓等についての考え方

■ 「夫も妻も家庭責任はともにもつべきである」という考え方には9割以上が賛成



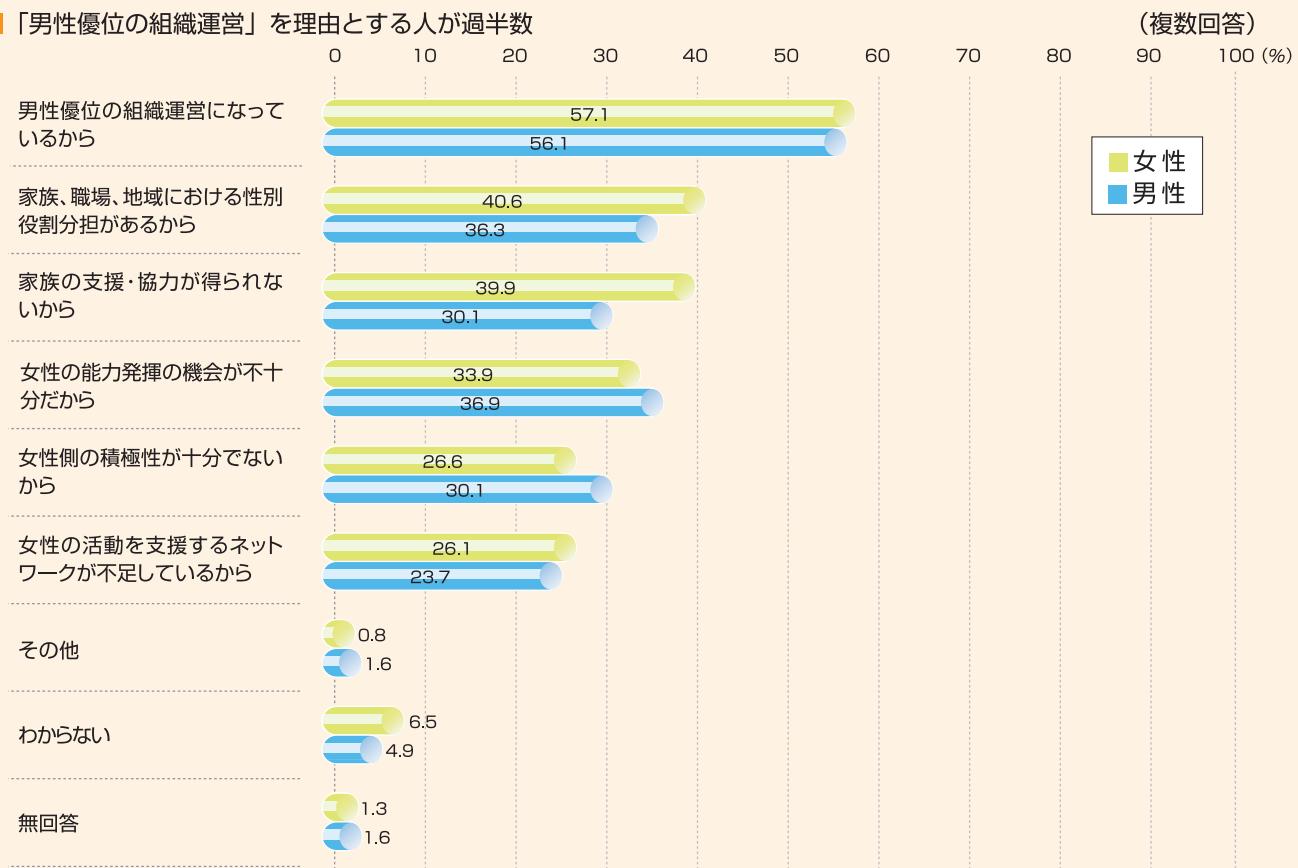
社会全体における男女平等の現状意識

■社会全体において『男性優遇』を感じる人が多い



政策の企画や方針決定の過程に女性があまり進出していない理由

■「男性優位の組織運営」を理由とする人が過半数



ポジティブアクションについて

■ポジティブアクションの考え方賛成する人は過半数

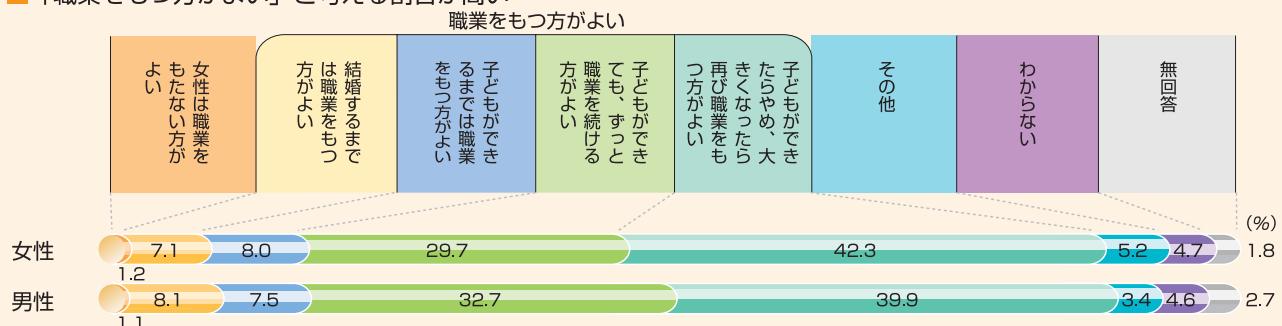


☆ポジティブアクションとは

男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして、男女の実質的な機会の均等を確保すべきであるという考え方。

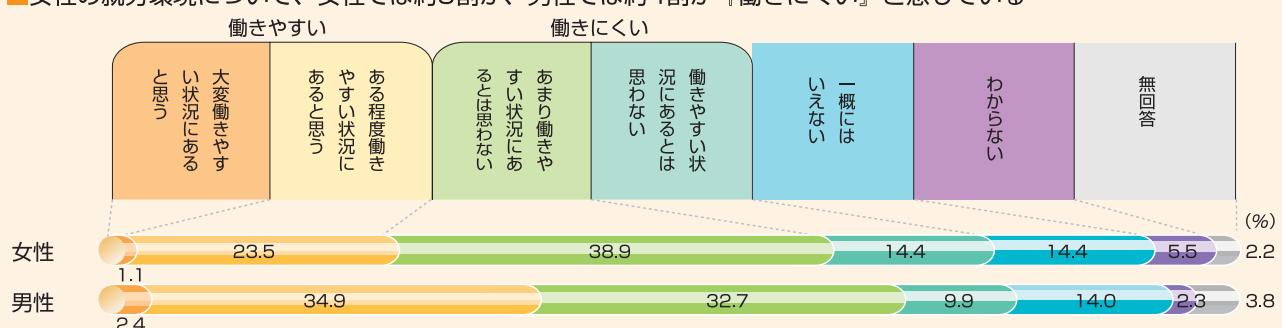
女性が職業をもつことについて

■ 「職業をもつ方がよい」と考える割合が高い



女性の就労環境の現状評価

■ 女性の就労環境について、女性では約5割が、男性では約4割が『働きにくい』と感じている



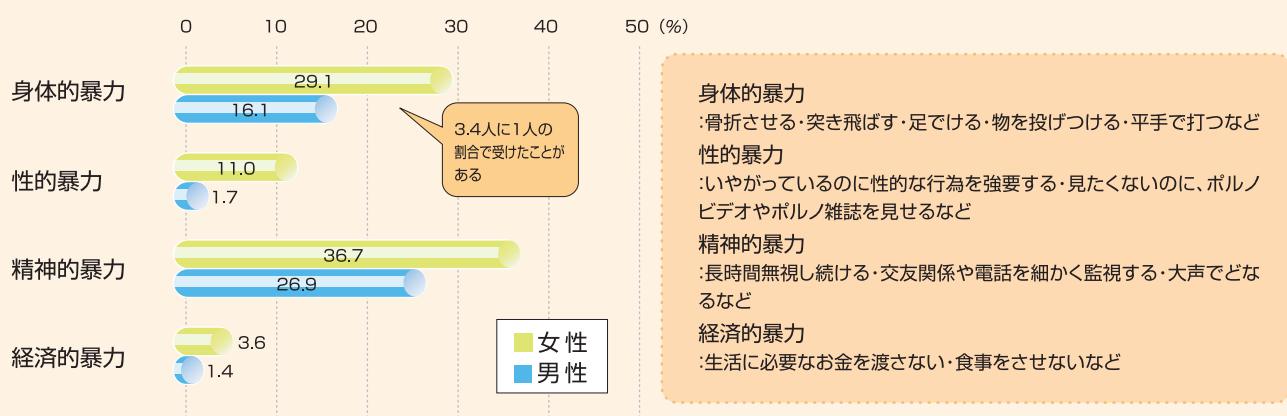
学校教育における男女平等教育の現状評価

■ 学校教育における男女平等教育について、女性では約4割が、男性では約5割が『十分に行われている』と感じている



ドメスティック・バイオレンス(DV)の実態

■ 配偶者や恋人がいる（いた）女性の約3.4人に1人は、何らかの身体的な暴力をこれまでに1度でも経験している



命の危険を感じたこと

■配偶者や恋人のいる（いた）女性の約33人に1人は、配偶者からの暴力によって命の危険を感じたことがある



配偶者間暴力への取り組みとして必要なこと

■「被害者を保護する体制の整備」「相談機関の充実」「加害者への対策」が必要

(回答は3つまで)

■ 女性
■ 男性



性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）だと思うこと

■「地位や権限を利用して、性的な関係を迫る」が8割を超えて最も多い

(複数回答)

■ 女性
■ 男性



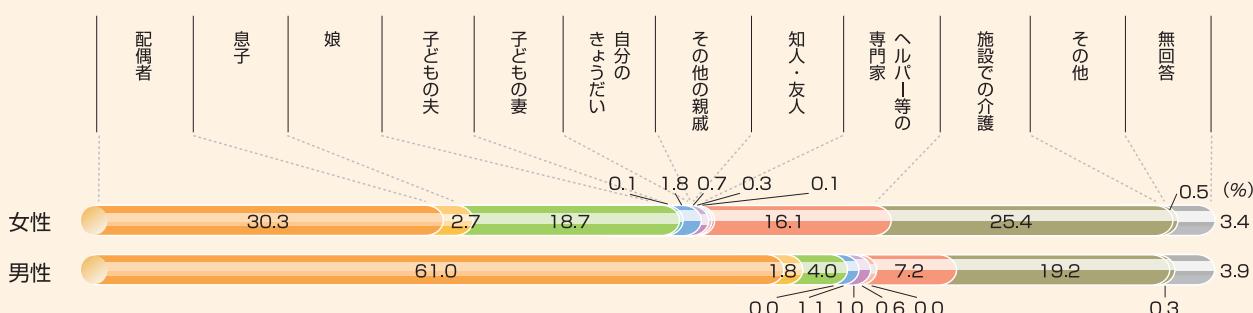
「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（生涯を通じての性と生殖に関する健康と権利）」の重要性

■男女ともに6割以上の人人が『重要である』と考えている



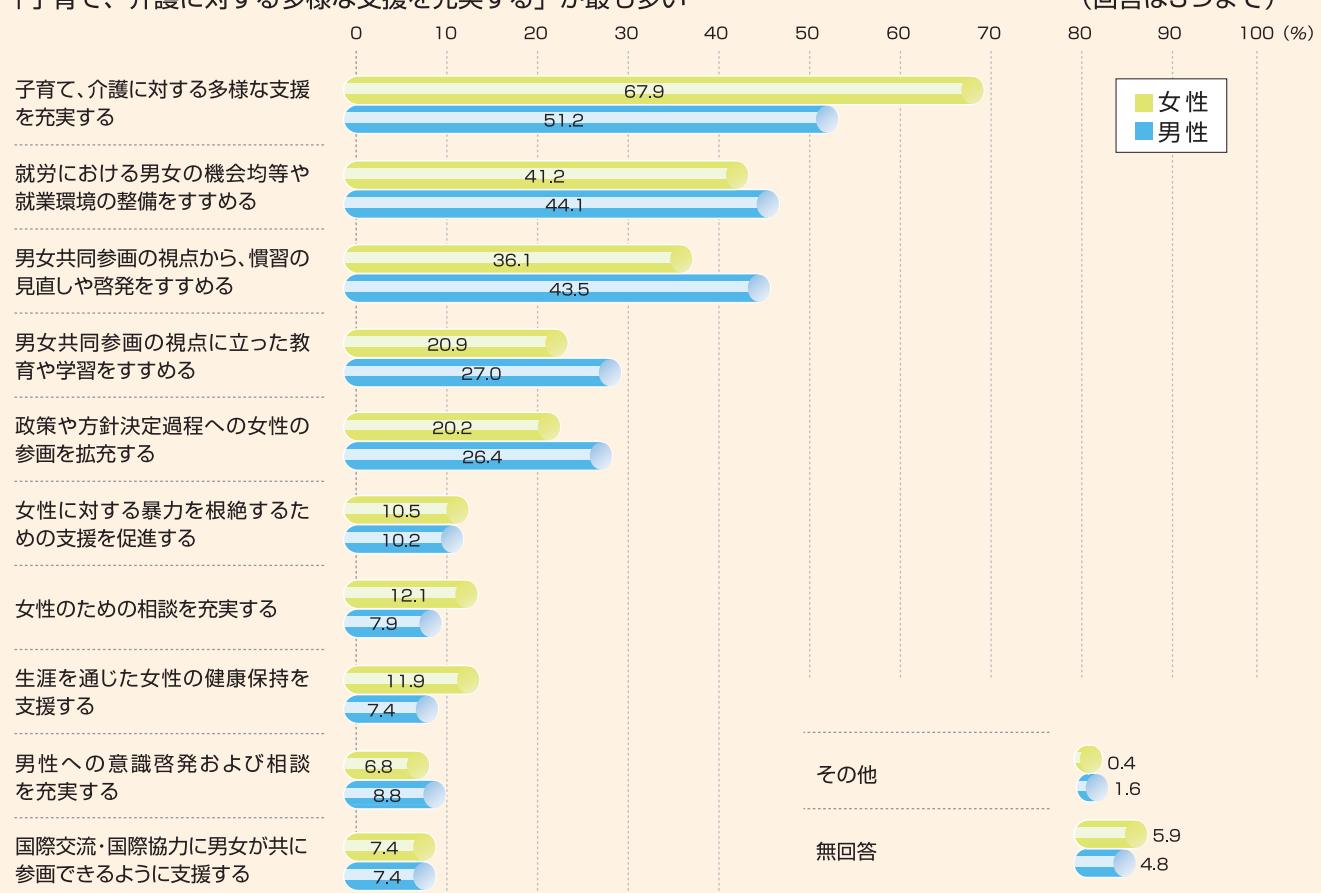
介護について

■自分自身に介護が必要になった場合、介護をしてもらいたい人は「配偶者」が最も多く、女性では3割、男性ではその2倍の6割を超える



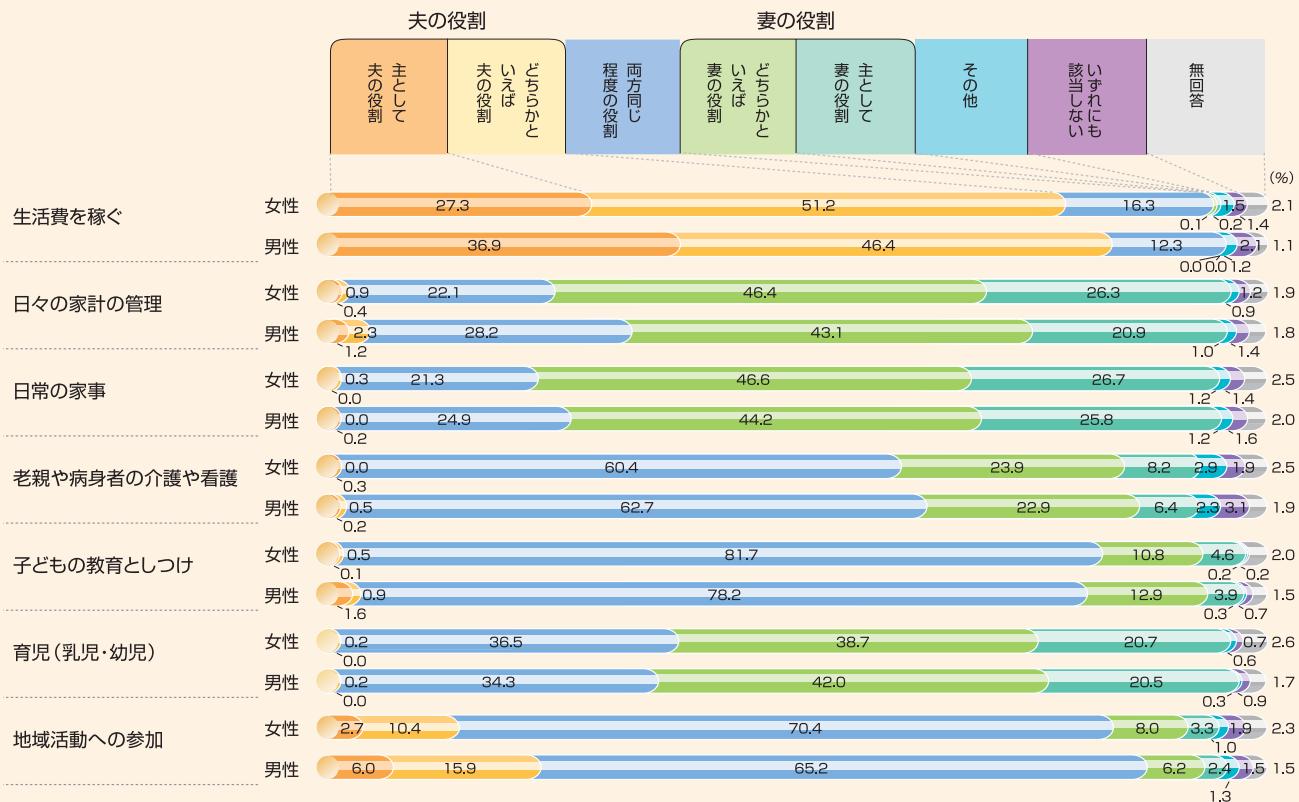
男女共同参画社会の実現のために行政が力を入れていくべきこと

■「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」が最多多い



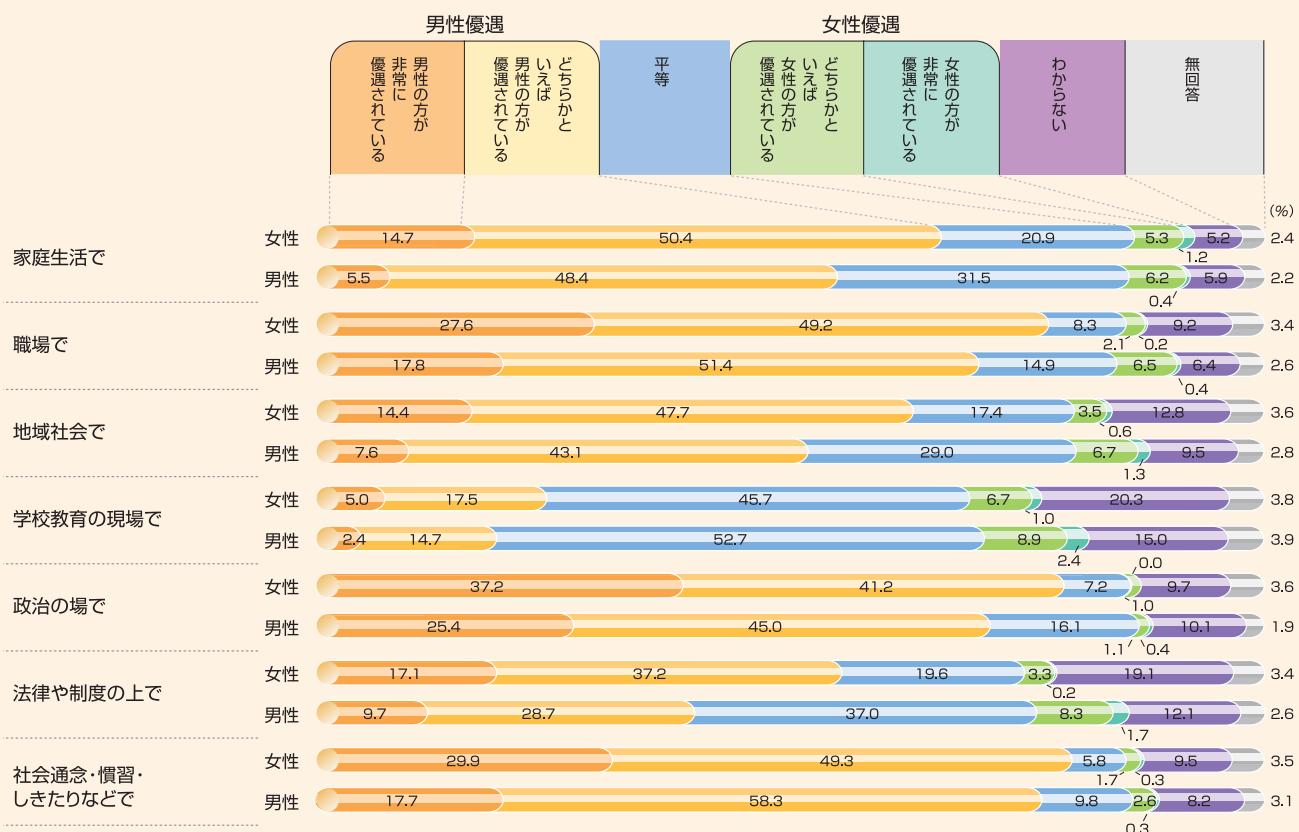
家庭の仕事の役割についての考え方

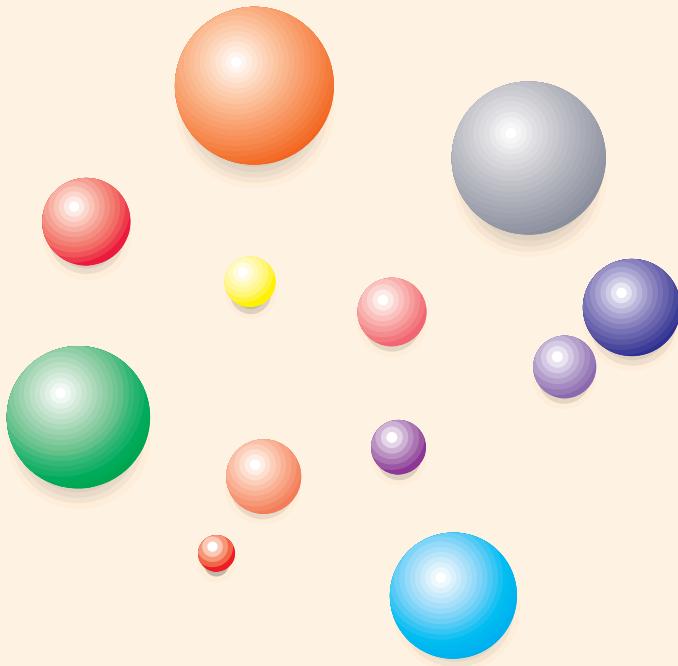
■妻の役割は「日々の家計の管理」「日常の家事」「育児（乳児・幼児）」、夫の役割は「生活費を稼ぐ」



男女の地位の平等意識

■「学校教育の現場で」以外では『男性優遇』が強く感じられている





調査の概要

調査地域： 岡山県全域
調査対象： 県内在住の20歳以上の男女
対象者数： 3,000人（回答者数2,064人 女性1,191人 男性846人 性別不明27人）
調査方法： 配布自記式アンケート（郵送回収）
調査時期： 平成16年10月12日～11月7日

・このパンフレットに掲載の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合もあります。

岡山県生活環境部男女共同参画課

〒700-8570 岡山県岡山市内山下二丁目4番6号

T E L : 086-226-7313 F A X : 086-225-2949
<http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjosankaku/danjo.htm>



この印刷物は環境にやさしい植物性
大豆油インキを使用しています。



この印刷物は自然保護の一環として
リサイクルペーパーを使用しています。